

◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は令和7年2月発行予定です。

「まちかど」カラー版は、品川区ホームページからご覧いただけます。<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>

裏面のQRコードよりアクセス可能です。

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第225号

令和6年(2024)12月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

花めぐり

ツワブキ

落ち葉が舞う頃、つややかな大きな葉を持つツワブキが黄色い菊状の花を咲かせます。ツワブキの名は「つやのある葉を持つ葎・艶葉葎(つやはぶき)」「厚い葉の葎・厚葉葎(あつはぶき)」から転じてという説があり、漢字の「石葎(つわぶき)」は海岸の岩場などに自生することからこの字が当てられたと言われています。



11月のある日
林試の森公園で撮影

昔から葉や根茎は生薬として使われました。また、あく抜きをして食べることも出来るようですが(農林水産省・「うちの郷土料理・宮崎県」) ツワブキには毒性もあり十分な注意が必要です。

山陰の小京都といわれる島根県津和野町。津和野の語源が「つわぶきの生い茂る野」であると言われていて町の花になっています。

花言葉は「謙遜、謙譲」「困難に負けない」など。
(小山一丁目・河原 マサ江)

『10月5日放送の
しながわEYEにて
紹介されました』



(荏原第一地域
センター)

品川区防災協議会・荏原第一地区協議会主催の総合防災訓練が10月20日に、林試の森公園にて開催されました。令和2年度から令和4年度はコロナによる中止、令和5年度は雨天による中止となり、令和元年度以降5年ぶりに実施する事ができました。

当日は、午前9時に開会式が行われ、堀越副区長をはじめ、消防署等の関係機関も出席しました。そして、小山一丁目東町会長の石津会長の司会のもと、荏原第一地区防災協議会の河野会長の訓練開始宣言が行われ、訓練がスタートしました。

3班に分かれてローテーション訓練を行いました。応急救護訓練では三角巾を使用した圧迫止血包帯訓練、初期消火訓練では訓練用消火器で標的を使用した消火体験、体験訓練では煙ハウス体験と地震体験車を行いました。煙ハウスの中に入った方々は前が全く見えないと感想を話し、地震体験車では想像以上の揺れを感じていた様子でした。

その他にも、防災ラジオの販売や防災関連用品展示の防災コーナー、消防車・救急車との記念撮影、親子防災体験コーナー等、内容が盛り沢山でした。そして最後は、区民消防隊・ミニポンプ隊の方々、荏原消防団による一斉放水

小山台神輿完成百周年渡御



5年かりの
荏原第一地区総合防災訓練



町会活動紹介

年の瀬の風物詩 (小山二丁目東部町会)



わが町会の、年の瀬の風物詩といえば、餅つきと夜警です。餅つきは年末の日曜日に行い、40年程の歴史があります。後地公園で前日から道具を洗ったり、米をといだりと、準備を進めて、当日は朝早くから餅米を蒸し、五種類程の菓味の仕込み、会場の準備と、午前10時の開催を目指します。

開催時には、一目目をつき始め、周りからの威勢の良い掛け声で賑やかに始まります。つきあがり前には、配布場所に長蛇の列ができ、数個の餅を乗せた皿を受取ると、それぞれ好みの菓味をもらい、美味しく食べていました。

つき手は、お父さん、子ども、シルバーの方まで、希望者についてもらいます。25kgの餅米も150分程でつきあがり、皆さん満足そうに帰って行きました。

暮れの夜警は10日間。その内の1日は、早い時間に子ども夜警を行います。昨年は、40人以上の親子が参加。子ども達に懐中電灯・拍子木を渡すと「カチカチ」「火の用心」と、リズム良く全員で声を出して、楽しそうに30分程町内を回ります。終了後には、火の用心の意味を教えて、ホットココアを飲み、お菓子つめ合せをお土産に、無事に帰って行きました。
(小山二丁目東部・会長 新井 清久)

新生児育成入魂の儀



です。荏原消防署の方の号令のもと、本番さながらの放水が行われました。災害に備え、日ごろから訓練をしている区民消防隊、ミニポンプ隊の一斉放水は圧巻で、場内からは大きな拍手が送られました。

総勢879名の方にご参加いただき無事に終了しました。不測の事態に備え、今後も地域一丸となって訓練を継続して取り組んでいきたいと思っています。
(荏原第一地域センター)



一斉放水ポンプ隊

当町会では平成27年、今から9年前より、祭礼の際、掲題の儀式を行っています。毎年のお祭りまでに誕生した新生児の健やかな成長と幸せな人生を祈念する催しです。三谷八幡神社の御魂が入った大神輿を鳳和会の担ぎ手がワッショイの掛け声と共に上下に揺れている下を新生児を抱いた親御さん(パパかママのいずれか)がくぐるというものです。

(荏原四丁目・会長 佐藤 眞一)